

平成 26 年 度

自 平成26年 4 月 1 日

至 平成27年 3 月31日

事 業 報 告 書

I 平成26年度 事業報告書

平成26年度の本道酪農は、25年度に顕在化した乳牛資源の減少に対して様々な手段で対応が始まった年でありました。その結果、年度後半になって生乳生産が前年同期を上回る状況となりましたが、年度としての生乳生産量は前年度を割り込む結果となりました。

生産不振はバターの商品不足につながり、このことを通じ国民は改めて我が国の酪農のおかれている厳しい状況を知るところとなりました。

また、一時期停滞が見られたT P P問題についても、事態が一気に進む懸念もあり予断が許されない状況にあります。

このような憂慮される状況の中、国は生乳生産基盤を強化するため、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」や「家畜改良増殖目標」を平成27年3月に策定したところです。

当協会はこれらの方針並びに道が定める方針に従い、本来の使命である乳牛検定並びに生乳検査事業を通じて本道酪農、乳業の健全な発展に資すると共に、北海道牛群検定促進クラスター協議会事務局として性判別精液及び受精卵活用事業を通じた乳牛資源の回復、並びに酪農経営向上に向けた取り組みに協力しました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合数99組合、農家数4,477戸、生乳出荷農家に対する普及率では73%になり、検定頭数は約35万頭でした。平成25年度バルク乳年間出荷乳量1,000トン以上の大規模農家では、牛群検定加入率が81.4%と検定情報を生産性向上に活用しています。また、搾乳ロボット農家は年度末で144戸あり、そのうち75戸が牛群検定に加入しています。

検定にかかる各種研修会については、検定成績の有効活用の促進や支援体制の整備等を目的とした指導者（検定情報活用支援）養成研修会を開催するとともに、検定技術者養成研修会を開催し検定精度の向上や信頼性の高い検定立会の実施に努めました。

酪農学園大学との包括連携協定に基づき、現場に即したカリキュラムを組み、その中で乳牛検定の重要性と検定情報の利用に関する講義を行いました。

電算業務については、基幹システムのアウトソーシング（外部委託）を行い、外部のデータセンターにサーバ、アプリケーション等を構築し本所の端末から運用するクラウドサービスに移行しました。また、検定農家の多様化に対応したシステム開発を実施し、運用開始に向けた準備を進めるとともに、検定組合のWebシステム導入、タブレットへの移行を推進するためのアプリケーションの開発・補完を行いました。

後代検定事業については、関係団体との密接な連携の下で調整交配精液の完全消化と娘牛保留等に努め、国際的にも高いレベルにある国産種雄牛の作出に貢献しました。

また、昨年度より開始された未經産牛のSNP検査とゲノミック評価により、従来より精度の高い遺伝的能力予測値（GPI）を利用できるようになりました。これにより、早期の選抜淘汰が可能となるため、牛群の遺伝的能力の向上と効率的な酪農経営へ寄与することが期待されます。このような中、北海道乳牛改良委員会の構成メンバーとして、本道における今後の乳牛改良の効率的・効果的推進体制の構築に向けて取り組んで参りました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査および依頼検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。

指定生乳生産者団体ホクレンと乳業者との取引等に関わる合乳検査においては、アウトサイダーを含む374万トン（前年対比99.2%）を対象に成分、体細胞数、細菌数ほかの検査を実施しました。

検査業務の基本となる検査精度確保については、試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項（ISO17025）が定める手法に準じた管理手法を取り入れ、一層の精度向上に努めました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産並びに輸送段階の衛生管理、乳房

炎防除、抗菌性物質残留の防止などを柱として積極的に取り組みました。

調査試験業務については、SNP検査に関する諸条件の確認、道外移出乳の品質確保に関する調査、乳成分測定機の新規パラメータであるケトン体に関する情報収集などを実施し、申請調査試験としてバルク乳中マイコプラズマ菌（属）の遺伝子検索に係る検査を実施しました。

また、道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズの認証機関として、本制度の円滑な推進に努めました。

組織運営においては、公益法人の財務規律である「収支相償」を前年度に引き続き達成できることとなりました。

また、平成27年10月に安平町において開催される第14回全日本ホルスタイン共進会について、当協会は北海道実行委員会のメンバーとして参画し、歴史ある行事が円滑に進められるよう協力しました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

優良な乳用雌牛群の改良と乳用種雄牛の選抜を促進するため、北海道の強い農業づくり事業（産地競争力の強化）牛群検定高度化事業実施要領に基づき、99検定組合（131市町村）等において、牛群検定、後代検定を実施した。年度末における検定農家数は4,477戸（47戸加入、169戸除籍と前年度より122戸減少）、検定牛頭数は34万7,909頭（前年度より1,636頭減少）で、事業量に応じて補助金を交付した。

事業の内容および実績

（単位：円）

事業 実施 主体	区 分		内 容	事 業 費	内 訳	
					道費補助金	そ の 他
（乳牛） 北海道 畜産 人工授精師協会	検 定 推 進	能 力 検 定	検定員謝金・立会	255,770,059	104,528,478	422,911,957
			生 乳 検 査	223,720,676		
			計	479,490,735		
		調整交配啓発	推 進 会 議	1,643,346		
			調 査 ・ 指 導	9,784,142		
			資 料 作 成	381,335		
			調査取りまとめ	9,772,952		
			現 地 指 導	1,820,492		
			計	23,402,267		
		検 定 娘 牛 保 留 啓 発	調査・指導推進	14,364,981		
			資 料 作 成	155,724		
			調査取りまとめ	10,026,728		
			計	24,547,433		
		小 計		527,440,435		
本会	検 定 指 導		5,360,221	1,048,522	4,311,699	
合 計			532,800,656	105,577,000	427,223,656	

イ 牛群検定の推進

牛群検定の一層の普及を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定や簡易化検定としてのA T検定法等の説明会を開催するなど、牛群検定加入促進と検定離脱防止に努めた。

本年度は、1組合が新たにA T検定に移行し、年度末で97組合、3,818戸、29万5,203頭で実施され、全検定農家戸数の85.3%となった。また、自動検定（搾乳ロボット検定）については、12戸加入したが2戸脱退したため、検定実績は昨年度末より10戸増の75戸となった。

大規模酪農検定システムは、16機種、18組合、38戸（前年度より1戸増）でシステム稼動となった。

ウ 検 定 成 績

平成26年度の牛群検定成績における、1頭1日当たり乳量は、前年度に比べ0.1kg増の28.9kg、乳成分については、乳脂肪率は0.01ポイント減の4.00%、乳タンパク質率は同値の3.31%、無脂乳固形分率は0.01ポイント増の8.80%であった。体細胞数は前年度より減少し214千/ml、濃厚飼料給与量は同値の10.8kgであった。

また、平成26年1月～12月の経産牛1頭当たり年間検定成績における乳量は、前年に比べ17kg減の9,088kgとなった。なお、分娩間隔については、前年より2日短縮し430日となった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

検定事業を円滑に推進するため、各地域・組合代表者による協議会・会議を開催し、検定情報の有効活用、効果的な指導に資するため、各研修会を主催するとともに検定員の資質向上、検定農家支援体制の構築に努めた。

また、検定組合等の要請に応じ、講師を随時派遣し検定事業の普及を図った。

① 地区別組合長協議会

- 開催期間 平成26年10月2日～10月20日
- 開催地 札幌市ほか9地区
- 出席者 281名

② 乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議

- 開催日 第1回 平成26年6月27日
第2回 平成26年9月18日
第3回 平成27年3月26日
- 開催地 札幌市
- 出席者 延べ107名

③ 検定情報活用推進会議

- 開催日 平成26年8月1日
- 開催地 札幌市
- 出席者 26名

④ 検定員中央研修会（乳用牛群検定全国協議会との共催）

- 開催日 平成27年2月27日
- 開催地 札幌市
- 出席者 321名

講演テーマと講師

i 「牛群検定40年の歩みとこれから」

（一社）家畜改良事業団

理事長 信 國 卓 史 氏

ii 「私の酪農経営と乳検」

ーバルク乳体細胞数を3万/mlに維持する酪農経営技術ー

有限責任事業組合 帯広畜産センター

検定農家 中 村 寿 夫 氏

iii 「乳牛改良をめぐる情勢について」

農林水産省 生産局 畜産部 畜産振興課
家畜改良推進班

乳牛係長 大 藪 武 史 氏

iv 「仕事を進めるうえでどうすればモチベーションは持続できるの？」

小春日和EMAメンタルトレーナー

(元 帯広第一病院看護部長)

主 宰 中 岡 千香子 氏

また、平成26年度優秀検定員として、本会が推薦した次の10名が乳用牛群
検定全国協議会から表彰された。

<受 賞 者> ※敬称略

川 合 幸 江	美瑛町乳牛検定組合
二階堂 悦 子	胆振西部乳牛検定組合
清 水 忠 良	鹿追町農業協同組合
大 井 京 子	上士幌町農業協同組合
宮 崎 忍	白糠町乳牛検定組合
徳 橋 百合子	計根別乳牛検定組合
青 山 義 明	標津町乳牛検定組合
佐 藤 北 見	湧別町乳牛検定組合
田 中 敦	北オホーツク農業協同組合
荒屋敷 麻奈美	天塩町乳牛検定組合

⑤ 地区別検定員研修会

- 開催期間 平成26年11月 4 日～11月20日、平成27年 1 月29日
- 開 催 地 札幌市ほか 9 地区
- 出 席 者 延べ392名

⑥ 検定指導士認定講習会

検定員および検定農家への指導助言活動を推進していく上で地域の中核となるリーダーを養成する講習会を開催し、適格者を北海道知事に認定申請した。その結果、8名が検定指導士として認定された。

- 開催期間 平成26年6月23日～27日
- 開催地 札幌市
- 受講者 8名

⑦ 検定情報活用研修会

- 開催期間 第1回 平成26年10月29日～10月30日
第2回 平成27年2月26日
- 開催地 札幌市
- 出席者 延べ242名

⑧ 指導者（検定情報活用支援）養成研修会

- 開催期間 平成26年12月1日～12月3日
- 開催地 札幌市
- 受講者 39名

⑨ 検定員養成研修会

- 開催期間 平成26年7月29日～7月30日
- 開催地 本別町（北海道立農業大学校）
- 受講者 35名

⑩ 牛群検定Webシステム研修会

- 開催日 平成26年6月30日、7月1日、7月4日
- 開催地 札幌市
- 受講者 52名

⑪ ゲノミック評価の利活用を図る勉強会

昨年度から開始された遺伝的能力向上対策の円滑な推進のため、検定農家および検定組合関係者の知識向上を図るため勉強会を開催した。

- 開催期間 平成27年2月6日～2月25日
- 開催地 9地区
- 出席者 延べ246名

(2) 後代検定事業

ア マスタ登録・生産娘牛・受胎の状況

(一社)北海道家畜人工授精師協会等との密接な連携の下で調整交配および娘牛の保留の推進を図った。

	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスタ登録頭数
平成23後検	53,765	24,683	8,536	(5,915)
平成24後検	53,914	24,472	8,756	(4,805)
平成25後検	52,213	23,767	(7,462)	(1,964)

(注) カッコ内は経過中の頭数

イ 平成26後検の調整交配

本会および地区連合会主催の乳用牛群改良推進会議との協議に基づき、検定組合・関係機関に対する説明会を開催した。

26後検の調整交配頭数は、当初計画に16組合からの追加希望2,016頭が上乗せとなり、5万4,954頭となった。

前 期 (交配期間：平成26年11月～平成27年2月)		後 期 (交配期間：平成27年4月～7月)		合 計		前 期 に 於 け る 3 月 末 の 調 整 交 配 頭 数
候補種雄牛 頭 数	調整交配 計画頭数	候補種雄牛 頭 数	調整交配 計画頭数	候補種雄牛 頭 数	調整交配 計画頭数	
100	29,403	85	25,551	185	54,954	28,289
前期計画に対する調整交配頭数率						96.2%

ウ 国産種雄牛生産強化推進事業

乳用種雄牛遺伝評価における検定データの正確性の向上と円滑な収集を行うため、20後検及び21後検の後代検定娘牛の検定成績が新たに採用されたことに対する奨励措置として、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて検定組合等に対し、5,115万円の助成金等が交付された。

● データ収集費（検定農家）	51,150,000円
20後検（A 4 検定 2 万円/頭： 2頭・A T 検定 1 万 8 千円/頭： 36頭）	
21後検（A 4 検定 2 万円/頭：485頭・A T 検定 1 万 8 千円/頭：2,229頭）	
● 娘牛確認費（検定組合）	278,700円
100円/頭：2,787頭	
計	51,428,700円

エ 高能力乳用牛選抜システム開発事業

乳用種雄牛遺伝評価における検定データの正確性の向上と円滑な収集を行うため、22後検及び23後検の後代検定娘牛の検定成績が新たに採用されたことに対する奨励措置として、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて検定組合等に対し、5,838万円の助成金等が交付された。

● データ収集費（検定農家）	58,066,000円
22後検（A 4 検定 2 万円/頭：503頭・A T 検定 1 万 8 千円/頭：2,667頭）	
● 娘牛確認費（検定組合）	317,000円
100円/頭：3,170頭	
計	58,383,000円

オ 高泌乳持続性乳用種雄牛利用促進事業

候補種雄牛の調整交配用雌牛について調整交配期間の繁殖成績に関する調査等を行うため、24後検及び25後検の候補種雄牛の精液を授精した雌牛への奨励措置として、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて検定組合等に対して3,075万円の助成金が交付された。

- データ収集対策（検定農家） 30,746,000円
25後検（1,000円/頭：30,746頭）

(3) 酪農経営安定対策補完事業（牛群検定システム高度化支援事業）

本会及び検定組合（以下「団体」という。）が行った生産寿命・繁殖成績向上対策および遺伝的能力向上対策に対し、（独法）農畜産業振興機構から本会を通じて、検定組合等に補助金が1億700万円交付された。

遺伝的能力向上対策については、遺伝的能力向上を図るための計画を策定し、未經産牛のSNP検査は、62組合、2,417頭（前年度38組合、1,487頭）実施された。

ア 生産寿命・繁殖成績向上対策

- 生産寿命・繁殖成績向上計画の策定 98団体 3,287,208円
- 肢蹄状況等に関するデータの収集及び酪農家に対する指導
97団体（4,429戸） 85,561,808円
- 小 計 88,849,016円(a)

イ 遺伝的能力向上対策

- 遺伝的能力向上計画の策定 98団体 1,191,649円
- 未經産牛の遺伝子情報を用いた遺伝的能力の評価の実施のために必要なサンプル収集、検査及び検定組合等に参加している酪農家に対する指導
62団体（265戸） 15,188,375円
- 未經産牛のゲノミック評価の利活用を図るための勉強会の開催
3団体 447,909円
- 小 計 16,827,933円(b)

ウ 事業の推進

- 事業の推進 1団体 1,322,829円(c)
- 合 計（a + b + c） 106,999,778円

(4) 平成26年度 S N P 検査助成事業

ゲノミック評価技術の精度向上に不可欠なリファレンス集団の拡充を図る目的のため、平成26年度牛群検定システム高度化事業によりゲノミック評価値が公表された2,352頭に対して、家畜人工授精事業体協議会（J A A B）より、588万円（1頭当たり2,500円）が助成された。

(5) 平成26年度牛群検定推進対策事業（牛群検定の試行、パソコン、通信機器助成）

牛群検定の普及拡大を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を22組合、37戸で実施し、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合に補助金246万9千円を交付した。

試行検定に係る事業は、平成11年度～26年度までに合計776戸が実施し、現在575戸が引き続き検定を実施（継続実施率74.1%）しており、牛群検定の普及定着に大きな効果をあげている。

また、組合パソコンの新規入替を行った31組合、情報収集端末を新規導入した85組合に対して、本会は531万円を助成した。

(6) 農業競争力強化対策民間団体事業（家畜個体識別システム利活用促進事業）

道内の生乳生産コストの低減、及び検定実施農家の生産性向上を図るため、個体識別情報をキーとした牛群検定記録と各種生産情報の複合的活用に取り組み、農林水産省から本会に対して、補助金911万円が交付された。

ア 生産情報活用に係る地域的な取り組みを行うための推進会議・検討会開催

- 生産情報活用推進会議 2回 延べ53名
- 生産情報活用検討会 1回 25名
- 生産情報活用技術検討会 1回 29名

小 計 2,184,398円（定額）(a)

イ 生産情報の処理分析のためのシステム整備

- 既存の牛群検定Webシステムをベースとした生産情報の分析システムの開発

小 計 2,808,000円（1/2相当）(b)

ウ 生産情報の処理分析及び分析結果の活用

- 生産情報活用に係る研修会の開催 2回 180名
- 技術資料、とりまとめ報告書等の配布
- 技術指導及び現地調査の実施

小 計 4,121,736円（定額）(c)

合 計（a + b + c） 9,114,134円

(7) 電子計算業務

ア マスタ登録業務

検定農家および検定牛のマスタ登録を次のとおり処理した。

検定農家と検定牛の追加・除籍処理件数

区 分	処 理 件 数		本年度末	前年度末	比較増減	対前年比
	追 加	除 籍				
農 家 マ ス タ	戸 52	戸 161	戸 4,490	戸 4,599	戸 △ 109	97.6%
検定牛マスタ	頭 133,483	頭 135,276	頭 474,422	頭 476,215	頭 △ 1,793	99.6%

注）マスタ処理件数のため実施戸数および頭数と相違。

イ 検定成績の計算処理業務

検定記録の年度処理について、578万6千件（月平均48万2千件 前年度比1万8千件減）の報告があり、これに対する修正を3万8千件（報告件数の0.7% 前年度比4千件減）、照会を2万件（前年度より変化なし）処理した。照会件数は横ばいであり、内部処理の一部改修により修正件数は減少した。

また、検定成績着信から成績検査処理までの時間短縮のため処理手順を見直し、検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数3.31日（前年度比0.81日減）へ短縮された。

ウ 検定記録の集計分析と提供

検定成績の電子データを希望する検定組合等（延べ87ヶ所）に対し、年間検定成績および牛群検定終了成績年報を提供した。また、検定日速報等のメール配信システムの運用については、検定農家へ直接送信分240戸（前年度比6戸増）、支援・指導団体105ヶ所、1,686戸分（前年度比9ヶ所、54戸分減）を対象として実施した。

農業協同組合等がその保有データと乳検データを組み合わせた酪農経営支援（組員経営管理支援システム：㈱J A北海道情報センター）を行うために、同意が得られた検定農家の牛群検定データ提供を継続した。

エ 検定情報処理システムの補完と開発

検定データの送受信システムについて、高速なブロードバンド回線（ADSL・光回線）を使用した牛群検定Webシステムへの移行を推進し、59組合の移行が完了した。

検定成績の利活用およびペーパーレス化の促進を図るため、牛群検定WebシステムのユーザーIDを、全検定組合、全検定農家および利用申請のあった検定組合連合会に配布した。併せて、牛群検定Webシステムの利用促進のためのリーフレットを作成し配布した。

検定立会時に使用するハンディ・ターミナルについては、タブレット型端末のシステムの開発および現地での運用試験を実施し、組合のタブレット機器購入について取り纏めを行った（83組合等、342台、1/3補助付リース対応）。

検定情報処理に関しては、多様な検定に対応するために、基幹システムの改修を継続し、アウトソーシング移行後の安定運用に向けた補完を行った。

オ 検定方法に関わる調査・検証

次世代の検定簡易化、精度向上、省力化に向けた基礎データとして、道内の検定農家8戸の協力のもと、搾乳別サンプルデータの収集を継続した。

カ 乳牛改良情報の活用手法と新たな遺伝評価方法の検討

疾病繁殖形質の北海道遺伝評価情報を拡充するために、抗乳房炎の基礎分析を継続し、泌乳形質との遺伝的な関係について調査を行った。また、新たに体重の遺伝評価を行うための基礎分析に着手した。

乳牛改良に関するセミナーへの参加、改良関係団体との定期的な技術交流を通じて知識と技術の向上を図った。

昨年度から開始されたゲノミック評価については、勉強会や講演を通じて普及と利活用の促進に努めた。また、全国評価において泌乳形質の遺伝評価モデルが変更されたことから、その注意点を周知するとともに新しい評価値の利活用促進に努めた。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

指定生乳生産者団体及び乳業者の申請により、成分・体細胞数検査16万2千検体および細菌数検査6万9千検体の合乳検査を実施した。検査対象乳量は、374万トン、前年度対比99.2%であった。

脂肪率および無脂乳固形分率は、それぞれ3.927%（前年度3.933%）、8.780%（同8.771%）であり、脂肪率では0.006ポイント低下し、無脂乳固形分率では0.009ポイント向上した。

一方、衛生的乳質においては、細菌数1万/ml以下の比率は98.6%、体細胞数30万/ml以下の比率は、前年度より0.3ポイント向上し、98.7%と引き続き高い水準を維持した。また、体細胞数20万/ml以下の比率は、4.2ポイント向上し、68.9%（前年度64.7%）であった。

イ 個乳検査の実施

農協等からの申請により、成分・体細胞数検査、細菌数検査ともに16万検体の個乳検査を実施するとともに、乳代精算に係る生乳受託旬報事務処理を代行した。検査対象乳量は249万9千トン、前年対比98.5%であった。

本会が個乳検査及び生乳受託旬報事務処理代行する農協数は67農協、酪農家数は4,378戸で、年度末における受託シェアは、酪農家戸数で73.2%、乳量で67.0%であった。

ウ 個体乳検査の実施

乳牛検定組合からの申請により、成分・体細胞数検査ならびにMUN検査について233万5千検体（前年対比98.2%）の検査を実施した。本会が個体乳検査を実施する組合数は70組合、農家数は3,238戸で、年度末の個体乳受託シェアは、乳検加入農家数ベースで72.3%、頭数ベースでは66.9%であった。

エ 依 頼 検 査

農協および乳業工場等からの依頼により各種検査を実施し、総依頼件数は、110万検体（前年対比95.7%）であった。主要な割合を占めてきた出荷毎のバルク乳や個体乳の体細胞数検査は、今年度95万1千検体であり、前年対比は95.6%であった。

乳房炎起因菌同定検査は平成21年度以降約1万検体/年で推移したが、平成26年度は前年度同様の1万2千検体で、前年対比101.6%であった。また、耐熱性菌検査は4,600検体、前年対比117.5%であった。

オ 生乳検査精度管理の充実強化

（一社）Jミルクが認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理を充実し、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公平かつ正確な検査の実施に努めた。

カ 外部精度管理への参加および国内機関との連携

(公財)日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査およびマックスルーブナー研究所(MRI, ドイツ政府研究機関)が実施する体細胞数測定機の国際相互比較試験に参加し、乳成分および体細胞数測定機の精度確認を実施した。

また、乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、(公財)日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な精度管理機関(FAPAS, イギリス)が実施する技能試験に参加し良好な評価を得た。

今年度より新たに、微生物試験に係る外部精度管理(栄研化学)に参加し、検査精度の確認を行った。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

乳質改善に係る技術普及の面では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会や乳房炎防除対策研究会、ミルカー管理技術指導者講習会の企画立案への協力並びに講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及を図った。

さらに、酪肉近基本方針において、生乳の安定供給の観点から、体細胞数基準(自主基準)のあり方について検討が必要との見直しの議論に係り、指定生乳生産者団体並びに北海道乳質改善協議会にデータの提供や内容の検討を含め協力した。

また、流通段階における生乳の安全・安心の確保については、指定生乳生産者団体並びに北海道乳質改善協議会が推進した抗菌性物質残留検査体制及び検査手法ついての情報収集とその内容の検討を行うとともに生産者向けリーフレットの作成に参画した。

イ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年４回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機および細菌数測定法のクロスチェックを実施し、基準内で良好に管理、運用されていることを確認した。また、乳業者が所有する乳成分測定機についても年６回、クロスチェックを実施した。

ウ 生乳取扱者技術認定講習会の開催

生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査技術の水準向上を図ることを目的として、生乳取扱者や酪農関係技術者を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者62名に、北海道知事から認定証が交付された。

- 開催期間 平成26年10月20日～24日（５日間）
- 開催地 札幌市
- 受講者数 62名（生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者）
- 知事認定者 62名
- 運営委員会の開催 ２回

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報（出荷乳量、乳温）を提供することで協力した。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記録記帳の推進に協力した。

また、指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として農薬・殺虫剤の成分であるシロマジン10検体、抗生物質カナマイシンおよびエリスロマイシン1,841検体について残留確認検査を実施し、すべて陰性を確認した。

(4) 調査試験業務

ア SNP検査に関する調査試験

検査工程の初期段階で行う牛の毛根試料からDNAを抽出・精製する方法について検討を行い、使用キットおよび試験に関する諸条件を確立した。

イ 生乳道外移出に係る関連調査の実施

道外移出生乳の乳質確保を目的として、依頼に基づき輸送用タンクの衛生管理に関する調査を行い、良好に管理されていることを確認した。

ウ マイコプラズマ性乳房炎に係る調査試験の実施

マイコプラズマ性乳房炎を効率的に防除するための体制構築の一環として、昨年度に引き続き、モデル的に地区を設定し、バルク乳中マイコプラズマ菌（属）の遺伝子検索に係る調査試験を実施した。

バルク検査延べ戸数4,091戸に対し陽性戸数は9戸であり、検出率は0.2%であった。

エ 乳成分測定機の新規パラメータに関する調査

乳成分測定機の新規パラメータであるケトン体は、乳牛の周産期疾病に係る潜在性ケトosisの指標となることから、道北事業所配備測定機にオプションを搭載し、調査試験として関係機関へデータ提供を開始した。

オ 個体乳 F P D（氷点降下温度）に係る調査試験

生乳中への加水の指標である F P D（氷点降下温度）について、個体乳の実態調査を行い、現在適用されている指標値の妥当性を確認した。

カ 光学式乳成分測定機による比重測定に係る調査試験

F T タイプの小型乳成分測定機に搭載されている比重パラメーターについて精度試験を行い、合乳の比重を高精度で推定可能なことを確認した。

(5) 効率的な検査体制の構築

十勝農業協同組合連合会との細菌数検査に係る共同実施について、本会の定める「生乳検査作業手順書」に基づき、効率的な検査体制としての業務連携を推進した。

(6) 検査基幹システムの更改

平成26年度から2ヵ年で取り進めている検査基幹システムの更新に係り、第1期の基幹システムにおける最小限必要なアプリケーションならびにデータベースの更新を終了し、併せて災害時を想定した B C P（事業継続計画）環境を構築する目的でクラウド化した。

(7) 道産食品独自認証制度（ナチュラルチーズ）認証の実施

道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として、業務実施規定に基づき3社6品目について継続認証した。

- 官能検査並びに会議の開催日 平成26年8月26日
- 開催地 札幌市
- 専門家審査員 5名の専門家に委嘱

3. 総務部関係

(1) 組織運営等

平成26年10月24日に初めての北海道公益認定等審議会による立入検査を受検した結果、報告を徴せられる事項はなかった。

また、財務上の重要規律である「収支相償」については、前年度に引き続き達成できるところとなった。

(2) 中期計画の策定

平成27年2月5日に会員の構成による中期計画策定検討会を開催し、検討委員から出された提言等については第3回理事会に報告し、平成27年6月に第4期中期計画を決定することとした。

(3) 施設整備等

本所については、入居する共済ビルの耐震工事を契機に3階から4階に館内移転をした。また、老朽化している事業所建物については、新たな建物への移転を含め、地元関係者との協議を行い、今後も引き続き取り組むこととしている。

(4) 基本事項への対応

個人情報の保護に関する研修、教育研修実施要領に基づく研修の実施、機関誌「検定検査乳s」の発行および業務活動発表会等について計画通り実施した。

第2 主要な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
平成26. 4. 21	第1回事業所長会議（札幌市）
5. 27～28	平成25年度決算会計実査（札幌市）
6. 4	平成25年度決算監査（札幌市）
9	第1回理事会（札幌市）
16	役員選考委員会
23～27	検定指導士認定講習会（札幌市）
27	第40回通常総会（札幌市）
〃	第1回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）
30、7. 1、4	牛群検定Webシステム研修会（札幌市）
7. 2～ 4	第1回内部監査（札幌市：総務部）
2	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（安平町）
11	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（興部町）
15	第1回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
17	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（新得町）
29～30	検定員養成研修会（本別町）
8. 1	検定情報活用推進会議（札幌市）
26	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査（札幌市）
9. 18	後代検定推進会議（札幌市）
〃	第2回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）
29～30	第2回事業所長会議（札幌市・千歳市）
30～10. 2	第2回内部監査（佐呂間町：網走事業所）
10. 2～20	地区別検定組合長協議会（全道9カ所）
20～24	生乳取扱者技術認定講習会（札幌市）
29～30	第1回検定情報活用研修会（札幌市）
11. 4～ 5	平成26年度上半期会計実査（札幌市）
4～ 1. 29	地区別検定員研修会（全道9カ所）
17	平成26年度上半期監事監査（札幌市）
12. 1～ 3	指導者（検定情報活用支援）養成研修会（札幌市）
2～ 4	第3回内部監査（札幌市：乳牛検定部）
9	第2回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
11	第2回理事会（札幌市）
平成27. 1. 19	第3回事業所長会議（札幌市）
2. 3～ 5	第4回内部監査（札幌市：生乳検査部）
5	第4期中期計画策定検討会
6～ 26	ゲノミック評価の利活用を図る勉強会（全道9カ所）
26	第2回検定情報活用研修会（札幌市）
27	検定員中央研修会（札幌市）
3. 20	第3回理事会（札幌市）
26	第3回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）

第 3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第40回通常総会 平成26. 6. 27	40	I. 報告事項 1. 平成25年度事業報告書について II. 付議事項 1. 総会運営規程の制定について 2. 平成25年度決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに財産目録）について 3. 平成26年度会費の賦課ならびに徴収について 4. 平成26年度役員報酬について 5. 役員の選任について 原案どおり議決 III. その他 1. 平成26年度収支予算について

第 4 理 事 会

年 月 日	主 な る 議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 平成26. 6. 9	1. 資産取得資金計画の策定について 2. 平成25年度決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに財産目録）について 3. 検定事業に係る補助事業の実施等について 4. 平成26年度収支予算の補正について 5. 役員選考委員の選任について 6. 規程の改正について 7. 第40回通常総会の開催について 原案どおり議決
第 2 回 平成26. 12. 11	1. 検定基幹システム（サーバ）に係る委託契約について 2. 牛個体識別システムに係る固定資産の取得について 3. 新規受託事業の実施について 4. 平成26年度収支予算の補正について 5. 第 4 期中期計画について 6. 平成27年度事業計画および予算編成について 7. 規程の一部改正について 原案どおり議決
第 3 回 平成27. 3. 20	1. 平成26年度資産取得資金計画について 2. 平成27年度事業計画ならびに収支予算について 3. 役員賠償責任保険への加入について 4. 役員選考委員の選任について 5. 規程の一部改正について 6. 受託事業の実施について 原案どおり議決

第5 組 織

1 会 員

区 分	25年度末現在	26年度加入	26年度脱退	26年度末現在
出 資 会 員	34	0	0	34
会 費 会 員	3	0	0	3
特 別 会 員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿)

(順不同)

出資会員

会 員 名	会 員 名
北 海 道	上 川 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
一般社団法人ジェネティクス北海道	後 志 地 区 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
一般社団法人北海道酪農協会	道 南 地 区 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
北海道ホルスタイン農業協同組合	胆 振 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
公益財団法人北海道農業公社	日 高 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
サ ッ ラ ク 農 業 協 同 組 合	十 勝 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
株式会社ジャパン・ホルスタイン・ブリーディング・サービス	釧 路 地 区 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
ホ ク レ ン 農 業 協 同 組 合 連 合 会	根 室 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
上 川 生 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	網 走 管 内 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
釧 路 農 業 協 同 組 合 連 合 会	宗 谷 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
根 室 生 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	留 萌 管 内 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
十 勝 農 業 協 同 組 合 連 合 会	北 海 道 酪 農 畜 産 協 会
宗 谷 生 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	雪 印 メ グ ミ ル ク 株 式 会 社
日 高 生 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	株 式 会 社 明 治
胆 振 生 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	森 永 乳 業 株 式 会 社
石 狩 乳 牛 検 定 協 会	よ つ 葉 乳 業 株 式 会 社
空 知 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会	北 海 道 日 高 乳 業 株 式 会 社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北 海 道 農 業 協 同 組 合 中 央 会	北 海 道 農 業 共 済 組 合 連 合 会
北 海 道 乳 質 改 善 協 議 会	

特別会員

会 員 名	会 員 名
北 海 道 乳 業 株 式 会 社	タ カ ナ シ 乳 業 株 式 会 社
チ ク レ ン 農 業 協 同 組 合 連 合 会	北 海 道 保 証 牛 乳 株 式 会 社
く み あ い 乳 業 株 式 会 社	ラ ク レ ン 農 業 協 同 組 合 連 合 会
株 式 会 社 北 海 道 酪 農 公 社	

2 役 員

(単位：名)

区 分		25年度末現在	26年度末現在	摘 要
理事	会 長	1	1	
	副 会 長	2	2	
	専 務 理 事	1	1	(常勤)
	理 事	8	8	
	計	12	12	
監 事	代 表 監 事	1	1	
	監 事	2	2	
	計	3	3	
合 計		15	15	

3 職 員

(単位：名)

区 分	25年度末現在	26年度採用	26年度退職	26年度末現在	摘 要
総 合 職	51	2	2	51	
一 般 職	15	1	0	16	
嘱 託	5	0	2	3	
合 計	71	3	4	70	

備考：臨時職員・パート職員 32名

(参考)

牛群検定事業実施状況の推移

年度	組合数 (戸)	マ ス タ 登 録				加入戸数 (戸)	除籍戸数 (戸)	全道生乳出荷 戸 数 (戸)	農林水産統計 頭 数 (頭)
		戸 数 (戸)	普及率 (%)	頭 数 (頭)	普及率 (%)				
17	113	5,419	69.1	353,376	72.0	101	181	7,846	491,100
18	113	5,294	69.2	346,604	73.4	69	194	7,650	472,200
19	112	5,230	70.0	356,426	74.1	88	152	7,473	481,000
20	111	5,138	70.6	361,465	73.7	59	151	7,277	490,500
21	110	5,053	71.0	361,587	73.9	56	141	7,117	489,200
22	110	4,983	71.8	357,796	74.6	72	142	6,939	479,600
23	107	4,825	71.8	358,605	72.4	67	198	6,718	495,400
24	100	4,721	72.6	354,690	71.6	60	191	6,505	485,200
25	100	4,599	73.0	349,545	72.0	54	176	6,297	470,300
26	99	4,477	73.4	347,909	74.0	47	169	6,098	

年度	1頭1日当 乳 量 (kg)	年間乳量 1 頭当 (kg)	成 分 率			体細胞数 (万/ml)	分娩間隔 (日)	空胎日数 (日)	1頭1日当 濃厚飼料給与 (kg)
			脂肪率 (%)	乳タンパク質率 (%)	無脂乳固形分率 (%)				
17	27.8	8,669	4.06	3.32	8.83	23.0	428	149	9.8
18	27.8	8,651	4.08	3.31	8.79	21.0	425	150	9.5
19	27.7	8,669	4.08	3.30	8.77	21.0	428	151	9.5
20	27.8	8,751	4.06	3.30	8.76	20.0	426	150	9.5
21	28.2	8,839	4.06	3.31	8.79	20.0	427	152	9.8
22	28.2	8,853	4.01	3.28	8.78	21.0	428	155	10.1
23	28.3	8,899	4.01	3.30	8.79	21.0	433	157	10.6
24	28.6	9,026	4.01	3.31	8.80	22.0	431	155	10.8
25	28.9	9,105	4.03	3.32	8.80	21.8	432	156	10.8
26	28.8	9,088	4.02	3.32	8.81	21.3	430	152	10.8

生乳検査成績の推移

年度	成 分 率			細菌数 1 万/ml以下 比率 (%)	体 細 胞 数	
	脂 肪 率 (%)	無脂乳固形分率 (%)	全固形分率 (%)		20万/ml以下 比率 (%)	30万/ml以下 比率 (%)
17	4.020	8.770	12.790	98.5	62.3	97.7
18	4.013	8.739	12.752	98.7	70.3	98.8
19	4.008	8.718	12.726	98.9	70.3	98.9
20	4.000	8.725	12.725	98.9	72.2	99.1
21	3.990	8.744	12.734	98.8	72.2	98.9
22	3.936	8.738	12.674	98.7	68.0	98.3
23	3.941	8.759	12.701	98.7	67.9	98.5
24	3.939	8.776	12.715	98.7	64.5	98.0
25	3.933	8.771	12.704	98.7	64.7	98.4
26	3.927	8.780	12.706	98.6	68.9	98.7

平成26年度 生乳検査実施状況

項 目		検 体 数	対前年比	備 考	
				検査対象乳量	前年対比
合乳	成分・体細胞数検査	161,678件	99.9%	3,741,430,391.1kg	99.2%
	細菌数検査	69,017件	98.6%		
個乳	成分・体細胞数検査	158,961件	97.1%	2,499,708,636.2kg	98.5%
	細菌数検査				
個 体 乳 検 査		2,335,153件	98.2%		
依 頼 検 査		1,099,560件	95.7%		